

第4学年 国語科学習指導案

い組 男子 18 名 女子 19 名 計 37 名
指 導 者 坂 本 敬

1 単 元 段落のつながりに気をつけて読もう(教材『かむ』ことの力 光村 4 年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまで第3学年の「まとまりに気を付けて読もう」の学習で、段落の要点を抜き出しながら、内容のまとまりをとらえる能力を身に付けてきている。また、「大事なことをたしかめよう」の学習で、中心となる語や文を見つけ、それを基に段落をまとまりに分ける能力や新しく知ったことや分かったことを整理して文章を読み取ろうとする態度を身に付けている。さらに、各段落の内容や役割をとらえながら、段落相互の関係を考えて読む能力を高めたいという願いをもっている。

そこでここでは、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え文章を読む能力や、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約しようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「段落のつながりに気をつけて読もう」(教材『かむ』ことの力)を設定した。

この学習は、それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを読み取り、段落構成を図にまとめることを通して、自分たちが伝えたい内容を選んでまとめる「材料の選び方を考えよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材『かむ』ことの力は、児童にとって身近で自然な「かむ」という行為の仕組みやよさについて分かりやすく説明した文章である。日常生活の中で特に意識していないであろう行為を取り上げ、自らの体や生活を見つめ直すことのできる本教材は、この期の子どもたちに適した教材である。また、本教材は問題提起部分(初め)と、その問題に対する説明の部分(中)、まとめの部分(終わり)という大きく三つのまとまりに分かれている。さらに、中の部分は内容によって二つのまとまりに分けることができる。それらは、接続語や指示語、文末表現などに着目することで段落相互のつながりがとらえやすく、それぞれの意味ごとのまとまりをとらえ文章構成を考えるのに適した教材である。

そこで本単元では、体の仕組みに目を向けさせ、その一つとして「かむ」ことの仕組みとそのよさを読み取っていくことを目的としていく。**その際、形式段落を意味段落にまとめ、接続語や指示語などを関連付けて考えさせ、段落のつながりをとらえさせることが大切である。**

具体的にはまず、体の仕組みについて、自分が知っていることや不思議だと感じていることについて話し合わせる。また、目的意識をもって学習に取り組ませるために、自分たちが不思議だと感じている体の仕組みを調べて自分たちも説明的な文章(新聞)を書くということを単元目標として設定させる。

次に、「かむ」ことの仕組みとそのよさを読み取らせていく。その際、接続語や指示語などを手がかりに中心となる語や文を的確につかませる。そしてそれを基にまとまりをとらえさせ、文章構成を理解させる。

さらに終末では、**学習したことを生かして、自分自身が調べたい体の仕組みについての本や資料を読み、説明的な文章(新聞)を書く活動を設定する。**

このような学習を通して得られる能力や態度は、文章構成に注意して読んだり、他の人に分かりやすく伝えるために、伝えたいことのまとまりを考え、文章構成を工夫して文章を書いたりしようとする態度へと結びついていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材に対してどのような興味関心をもっているのかについて調査した結果は次のとおりである。(数字は人数を表す。)

① 初発の感想(複数回答)
・「かむ」ことはいろいろなことに役立っているのだな。(24)
・「かむ」ことと脳や体全体がつながっているなんてすごい。(12)
・これからはしっかりかむようにしたい。(10)
・唾液の働きがすごい。(4)
② 「かむ」ことのよさにはどんなことがあったか。(複数回答)
・歯も骨も関節も筋肉も強くなる(29) 歯の健康によい。(27) 食べ物の量を調整している(24)
・体全体の成長や活動にとっても大切(21) 脳の働きが活発になる。(18)
・5つすべてとらえられている(15)
③ まとまりの把握(複数回答)
・初めのまとまり(28) ・中のまとまり(17) ・終わりのまとまり(25)
④ 指示語の理解(②段落「 <u>その</u> 知らせ」⑦段落「 <u>この</u> ときの部分」)
・2問とも正解(28) ・「 <u>その</u> 知らせ」のみ正解(1) ・「 <u>この</u> ときの部分」のみ正解(6) ・誤答(2)
⑤ 接続語の理解
・しかし：逆接(37) ・さらに：添加(35) ・つまり：説明(35)
⑥ この学習でのまとめた型式(抜粋)
・図鑑(14) ・新聞(13) ・説明書(7) ・紙芝居(3)
⑦ 難語句の意味(複数回答)
・しれい(10) ・そしゃく(8) ・関節(7) ・だえき(5) 成分(5) ・おおよそ(4)
・初期(3) ・消化(3) ・調整(2) ・ほお(2) ・バランスがとれなくなる(1)
・心が安定(1) ・学習能力(1)

多くの子どもたちが「かむ」という行為が体のいろいろなことに関わっていることを知り、興味を抱いている。(①)「かむ」ことのよさについては、5つすべてをとらえられている子どもは少ない。(②)これは、日常の何気ない行為が多くの子どものよさをもっていることを初めて知ったからだと考えられる。前学年で学習した段落のまとまりについては、問題提起部分(初め)とまとめの部分(終わり)をとらえることができる子どもが多いが、問題に対する説明の部分(中)を二つに分ける分け方に違いが見られた。(③)これは、段落のまとまりをとらえる学習がまだ少ないことと、問題提起文に準じてまとまりを作ろうとすると、相互の関係をどのように考えればよいか分かりにくい点にあると考える。また、指示語の指し示す内容については、明確にとらえることができている子どもが多い。(④)ただ、文脈に即して適切な接続語を選択できている子どもは多い。これは、**前学年での学習内容がしっかりと定着している**ととらえることができる。(⑤)

学習内容をまとめる活動としては、図鑑を選んだ子どもが多い。これは、**3学年時の学習で図鑑にまとめる活動を行ったからだ**と考えられる。また、見やすさ、まとめやすさ、伝えやすさから新聞を選んだ子どもも多い。(⑥)難語句は、子どもたちが日頃あまり使わないであろう体に関する言葉が多く挙げられている。(⑦)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、段落相互の関係を明確につかませるための手立てを工夫するために、学習内容や指導法を以下のように行うことが大切であると考ええる。

- ア 体の仕組みや不思議さについて目を向けさせたり、学習を生かして他の体の仕組みを新聞にまとめることのよさに気付かせたりするために、**導入時に教師が作成した体に関する新聞を提示する。**
- イ 目的に応じて中心となる語や文をとらえるなどして段落相互の関係を押さえて読む能力を高めるために、段落ごとに書かれている内容に応じて簡単な小見出しを付けさせたり、「つまり」「ですから」の接続語を用いた短文の意味を考えさせたりする。
- ウ 自分の読み深め方を振り返らせるために、教材文や**自分自身が調べてきた体の仕組みについて段落のまとまりやつながりを意識した新聞にまとめさせる。**

3 目 標

- (1) 「かむ」ことの仕組みや「かむ」ことのよさに興味をもち、書かれている内容ごとに段落をまとめて読み、新聞にまとめることができる。
- (2) 抜き出した要点を基にして、複数の段落を関係付けて、まとまりを考えることができる。
- (3) ア 接続語や文末などを押さえて段落の要点を抜き出したり、まとまりごとに小見出しをつけたりしながら段落相互のつながりを考え、文章を読むことができる。
イ 意味段落の内容を小見出しにまとめることができる。

4 指導計画（全10時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとめ	体には、不思議なことやすごいことがあるな。	1～2 内容への興味の喚起と学習目標・計画の立案 ○「体の不思議を調べ、発表しよう。」 ・体の不思議発表 ・新聞モデルの通読 ・教材の音読 ・初発の感想 ・単元の目標設定→ 体の不思議を新聞にまとめ発表しよう。 ○「学習計画を立てよう。」	○ 活動への興味・関心を高めさせるために、日頃感じたり、知っていたりする体の不思議について発表させる。 ○ 新聞にまとめることのよさを感じさせるために、 教師の作った新聞を提示する。
②	新聞にまとめると、とても見やすい。	3～5 「『かむ』ことの力」の各段落の読み取り ○「『かむ』とは、どういう事なのだろうか。」 ・1段落の問いの確認 ・2段落の要点の読み取り ○「『かむ』ことには、どんないいことがあるのだろうか。」 ・3～8段落の要点の読み取りと小見出しの作成 6「『かむ』ことの力」新聞の作成 「読み取ったことをわかりやすく新聞にまとめよう。」 ・まとまりの明確な新聞の作成	㊦ 接続語や指示語について理解できていない子どもには、教師が例文を提示したり、関連する文や言葉に線を引かせたりする。 ○ 要点を基に新聞にまとめさせるために、要点と小見出しを短冊にまとめさせる。 ○ 的確に読み取れているかを確認させるために、短冊をグループ内で交換し、読み合う。
しらべる	「かむ」ことには、どんなよさがあるのかな。	7～9 体の不思議新聞の作成 ○「体の不思議について調べよう」 ・資料収集 ・要点の読み取りと小見出しの作成 ○「どんなまとまりやつながりになっているだろうか。」 ・まとまりやつながりを生かした新聞の作成 ○「自分が書いた新聞は、体のふしぎさが、相手に分かりやすく伝わるだろうか。」（本時） ・友達のアドバイスカードを基にした見直し 体の不思議について、段落のまとまりやつながりを意識した新聞になっているな。ただ、見出しを少し変えた方がいいところがあるな。	○ まとまりを意識させるために、新聞の原稿上に短冊を並べさせそれを自由に動かしながらまとまりを考えさせる。 ○ 自分で考えた新聞のできばえを確認させるために、新聞をグループ内で交換し、読み合わせる。 ○ 学習したことを生かして新聞にまとめられているか振り返らせるために、 友達の新聞を読んで、わかりやすいと感じた部分とその理由をアドバイスカードに書かせる。
③	「『かむ』ことの力」を新聞に分かりやすくまとめたいな。	10 学習の評価・振り返り ○「体の不思議新聞を読み合い、それぞれのよさを伝え合おう。」 ・相互発表 ・自己評価	○ 学習してきたことを基に新聞を作成できたかを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させ、その理由を書かせる。
ふかめる	問いは、どのように書こうかな。自分が最も伝えたい体の不思議は、どんなことかな。		
④	自分の伝えたい事が、相手に分かりやすく伝わるかな。		
ふりかえる・いかす	内容を考えて小見出しを付け、接続語などにも気を付けて新聞を書くことができた。		

5 本 時(9/10)

(1) 目 標

友達の書いた「体の不思議新聞」についてのアドバイスを基に伝え合う活動を通して、文章の要点を小見出しにまとめたり、指示語や接続語に着目して段落相互の関係について考えたりすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

文章の要点を小見出しにまとめたり、指示語や接続語に着目して段落相互の関係について考えたりすることのよさに気付かせるために、お互いの新聞が分かりやすい理由や分かりにくい理由について話し合わせる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	具体的な教師の働きかけ
つ か む ・ み と お す	1 前時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。 自分が書いた新聞は、体のふしぎさが相手に分かりやすく伝わるだろうか。	(分) ↑	○ 学習に主体的に取り組ませるために、前時までの学習を想起させ、本時の学習課題を設定させる。
	2 学習の進め方を確認する。 ○ 友達の「体のふしぎ新聞」についてのアドバイスカードを書く。 ○ 体のふしぎさについてまとめたことや考えたことが分かりやすく書かれていたか話し合う	5	○ 学習の進め方について見通しをもたせるために、まず友達の新聞についてのアドバイスを書き、それを基に、考えを伝え合うという手順を確認する。
し ら べ る	3 「『かむ』ことの力新聞」を読んで、わかりやすい新聞になる観点を確認し、友達の新聞のアドバイスカードを書く。 (1) 「『かむ』ことの力新聞」を読み直して、どのようなことに気を付けながら書いたか振り返る。 段落のまとまりを考えて見出しを付けたら、「このように」などの指示語や接続語を使ったりして書いたんだっとな。	15	○ 観点を基にした話し合いをさせるために、アドバイスカードを書く際は、 接続語や指示語が適切に使われているか、内容を考えた小見出しが付けられているかなどの観点到に沿って書くよう にさせる。 ○ 観点到に沿ってアドバイスを書くことの大切さに気付かせるために、「『かむ』ことの力新聞」を振り返らせる。
	(2) 友達の新聞に対するアドバイスカードに書く。 見出しだけを読んでも、なみだのよさがよくわかるな。 なみだのよさが大きく2つ書かれているから、なみだの大切さがよくわかったよ。	5	○ 接続語や文末表現に目を向けさせるために、要点を読み取ったりまとまりを考えたりした学習で着目した言葉を想起させる。 ㊦ 自分の考えをまとめることが困難な子どもには、観点到に沿って書くことができて友達のアドバイスカードを参考にさせる。
ふ か め る	4 友達の書いたアドバイスカードを基に、自分の考えを伝え合う。 小見出しがうまくつけられていたんだね。うれしいな。 なるほど。確かに接続語の使い方がよくないから文がうまくつながっていないな。気付かせてくれてありがとう。	20	○ 友達との意見交換を基に、書いた新聞のよさや改善点到に気付くことができた喜びを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。
	5 本時のまとめをする。 接続語を適切に使ったり、小見出しが内容に合っていたりしてよく伝わった。 ○ 自己評価をする。	5	○ 観点到をもって伝え合うことのよさに気付かせるために、友達のアドバイスを基に自分の考えをもったり、修正して分かりやすくなったりしたことを価値付け、称賛する。
ふ り か え る ・ い か す	6 次時の学習について話し合う。	↓	